

ショウドウツバメ

Riparia riparia

ツバメ科・夏鳥



ショウドウツバメ

名前の由来

土の壁に小さな穴を掘ってすむツバメであることからこの名がつけられたと思われる。ツバメの意はくちばしで土をくわえていき巣をつくるので「土食み(つちばみ)」と呼ばれ、チを略しミがメに変わりツバメになったという説、「ツバ(光沢)クラ(黒)メ(鳥)」からというもの、他に「ツバクラという鳴き声」から、「ツバ(鳴き声)クラ(小鳥)メ(鳥を示す接尾語)」から、など諸説がある。漢字名：小洞燕

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)13cm。茶色い小型のツバメ。尾の切れ込みは浅く、上面は暗褐色、下面は白く胸にT字形の褐色帯がある。「ジュジュ」

と鳴く。
飛び方：ひらひらと羽ばたく感じで飛び、イワツバメよりも遅い。

声：地鳴き(さえずりでない普通の鳴き声)では「ジュー」とか「ビー」「ビルル」といった短い声で鳴く。「ジィジィジィ、ピィジィジィ」とせわしなく鳴き続けるのがさえずりではないと言われる。ヒナは「ジュジュ」と鳴く。

類似種と区別点：イワツバメ。

イワツバメは腰が白く胸にT字形の褐色帯がない。



ショウドウツバメの腹(左)と背中(右)。胸に「ネクタイ」があり、腰は白くない



イワツバメの背中。翼の下、腰が白いのが少し見える

生息環境・分布

河川や湖の岸、海岸の砂土、泥炭などの崖に集団で営巣する。十勝には5月中下旬に渡来する夏鳥。

分布：北半球の温帯以北に広く繁殖分布し、冬はアフリカ大陸、東南アジアなどの熱帯で越冬する。

日本では北海道のみで繁殖する。春と秋の渡りの時期に、本州以南を旅鳥として通過する。

北海道(十勝でも)では5月中～下旬に渡来する夏鳥。繁殖する。平野部の河川沿い、湖沼周辺などに生息し、河岸段丘や海岸段丘などの急斜面、水辺以外でも採土跡などの土質の崖に営巣する。

十勝には5月中下旬に飛来し、河岸段丘などの急斜面の土壁に集団営巣する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期						繁殖						
東南アジアなど(越冬期)	-									-		

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

食性・他生物との関わり

飛行中のウンカ、フウセンムシ、ミズムシ、ハエなどの昆虫類を食べる。

営巣地周辺の原野、湿地などの上を飛び回り、空中で捕食

する。ひらひらと羽ばたいて飛ぶ。イワツバメより飛び方が遅く、ツバメより滑空することが少ない。

猛禽類などに捕食される。

繁殖生態

繁殖期は6～8月で、年2回、一夫一妻で繁殖する。

土崖などに横穴を掘って巣穴とする。巣穴は直径5～9cmで深さは1mに及ぶものもある。巣の最深部に獣毛、羽毛、枯れ草を利用した椀形の産座がある。巣づくりはオスメスともに行い、2週間以上かけて巣穴を掘る場合があるという。集団で営巣し繁殖する。

産卵数は3～5個。オスメス交代で卵を抱く。抱卵日数は12～16日、オスもメスも同程度に抱卵するという。ヒナに対する給餌もオスメス両方が行い、約19日でヒナは巣立つ。



ショウドウツバメのコロニー(集団営巣地)とヒナに餌をやる親鳥(円内)

興味深い話

■人家に近い集団営巣地(コロニー)ではスズメに巣を横取りされることも多いという。

■産卵前の1週間はメスが外に出るとオスはその後ろにピッタリくっついて飛び、婚外交尾を防ぐためにメイトガードを行う。

■産卵期のメスは体内に卵を持っているため体が重く、その重々しい飛び方を見て周りのオスは婚外交尾を試みるという。

■巣立ち間際のヒナは巣から飛び出すようになる。巣穴に戻るときに隣接する巣穴に飛び込むことがあるため、親が間違えて自分以外の子に給餌することがある。しかしヒナは成長に従って「認識コール(signature call)」と呼ば

れる2音節の声を発達させ、これによって親は自分の子を区別できるようになるのだという。

■渡りの時期である春や秋には本州以南で旅鳥として見られるが、特に秋には河原や干潟に大群で現れ、しばしばツバメと混じってヨシ原などで集団ねぐらを形成するという。

■茨城県霞ヶ浦などで一部が越冬するという。

■繁殖活動を終わるとまず成鳥がコロニーを離れて渡りを開始し、幼鳥は成鳥より遅れて渡りを開始するという。

■一方で明らかに渡りの途中と思われる群れの中で餌やりが行われている写真もあり、渡り時に親子関係が続いている場合もあるらしいという。

■十勝地方のアイヌ語で「トメンピロ」という。

配慮事項

繁殖には段丘などにある切り立った土壁が必要。水衝部などで削れたそれ程高くない土崖などにも営巣する。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)

「わたり鳥」吉井正・叶内拓哉、東海大学出版会 1979

「野鳥識別ハンドブック」高野伸二、日本野鳥の会 1980

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. I」清棲幸保、講談社 1978

「山川弘氏からの聞き取り記録」内田祐一 (未発表)

Cramp, S. (ed.) (1988) Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa. Vol. V. Oxford Univ. Press, Oxford.

Beecher, M. D., I. M. Beecher & S. Hahn (1981) Parent-offspring recognition in Bank Swallows (*Riparia riparia*): II. Development

and acoustic basis. *Anim. Behav.*, 29: 95-101.

玉田克巳・大河原彰・柏川眞隆・阿部嗣 (1993) 中標津町におけるショウドウツバメのコロニーの個体数推定. 日本鳥類標識協会誌, 8(1): 15-18.